

有毒瓦斯ノ問題ハ充分ニ討論セラレ且之ニ關スル意見ハ今々頗ル明ニセラレタリ故ニ反覆シテ時間ヲ空費スルヲ欲セス
單ニ日本全權トシテ「ルート」氏決議案ニ對シ賛成ノ意ヲ表明スト述フ

五、議長ノ採決ニヨリ全會一致之ヲ可決セリ

第一項 第二十回軍備制限總委員會

(千九百二十二年一月三十一日午後三時三十分)

一、第二十回總委員會ニ於テ海軍條約ノ審議ヲ了シタル後議長「ヒューズ」ハ「ルート」ノ提議ニ係ル潛水艦ノ使用法規ニ關スル決議及毒瓦斯禁止ニ關スル決議ヲ一括シテ一條約案トナシ且其ノ佛文ハ「カムレル」(Kammerer)氏ノ協贊ヲ經タル旨ヲ述ヘ本條約案ニ付異議ナクハ之ヲ明日ノ總會議ニ提出セムト欲ストテ條約案ヲ朗讀ス終テ議長ハ本條約案ニ付何等意見アリヤト諮ル

非締約國ノ力ヲ加スルニ至リタル本條約ノ

二、「バルフォア」立テテ今朝英國代表ノミノ會議ニ於テ議論トナリタル所ナリト前提シ本條約案ハ本委員會列席ノ諸國ノミノ間ニ於テハ極メテ其ノ關係明白ナルモ締約國ノ中ノ一國カ他ノ締約國ト戰爭ヲ開始シ其ノ締約國カ非締約國ト同盟セル場合ニ於テハ困難且不明ナル結果ヲ生スヘシ此點ニ付「ルート」氏ノ御意見ヲ承リ度シト述フ

三、仍テ「ルート」氏ハ本問題ハ非締約國タル其ノ相手方カ本條約ヲ適用スルコト能ハサル程度ニ兇暴ヲ敢テスルヤ否ヤニ依テ決スヘク主トシテ事實問題ナリト説明ス

四、「シャントエ」氏ハ右「ルート」氏ノ説明ハ極メテ重大ナル了解ヲ構成スルモノナルヲ以テ議事録ニ留ムルノ必要アリト主張ス

五、議長ハ之ヲ議事録ニ留ムル旨ヲ宣シ次テ本條約案ヲ二月一日ノ總會議ニ報告スルノ件可決

六、「サー、ジョシ、サルモンド」ハ海軍制限條約及潛水艦毒瓦斯使用法規ニ關スル條約ニ各々 Naval Treaty of Washington, Declaration of Washington (Declaration of Paris, Declaration of London ニ倣フ)ト命名スヘキ旨提議セルモ議長ハ強テ命名ノ要ナク一般公衆ノ稱呼ニ委スヲ可トスト述ヘテ反對シ結局否決

第二項 第五回總會議ニ於ケル「ルート」氏ノ演說

(千九百二十二年二月一日)

一、第五回總會議ニ於テ海軍條約ヲ採擇セル後議長「ヒューズ」ハ軍備制限總委員會ハ戰時ニ於ケル潛水艦毒瓦斯使用ニ關スル決議ヲ可決セシカ該決議ハ一條約ニ編纂セラレタリト報告シ「ルート」ニ之ヲ提出センコトヲ乞フ

「ルート」ニ、「ルート」ハ

本條約ハ武器ノ使用ニ關シ或種ノ制限ヲ強制シ以テ軍備ヲ縮少セントスル條約ヲ補助スルモノナリトテ其全文ヲ朗讀シタル後述ヘテ曰ク

諸君モ見ラルルカ如ク此ノ條約ハ商船ノ臨檢搜查、拿捕ニ關スル國際法ヲ制定セントスルモノニ非スシテ交戰國軍艦ニ依ル商船取扱ニ關スル國際法ノ最重要有效ナル規定ヲ宣明シ且如何ナル場合ニ於テモ潛水艦力之等非戰闘員ノ生命保護ノ爲メ存スル人道的規則ノ適用ヲ免カルルモノニ非サルコトヲ宣言スルモノナリ(拍手)又更ニ進ンテ此等ノ規則ノ違反ヲ嚴罰セントス即チ此等五國及他ノ一切ノ文明諸國ニ於テ遵守スヘキ戰時國際法ニ違反シテ商船ノ不法ナル破壞ヲ行ヒ其ノ旅客タル婦人、小兒及非戰闘員ヲ殺戮セハ爾今之ヲ海賊行爲トシテ處罰スヘシトスルモノナリ

(拍手)

該條約ハ尙更ニ商船捕獲ノ爲ニ潛水艇ヲ使用シ依リテ此等規則ニ違反スルニ到ル誘惑ヲ防カンカ之カ使用ヲ禁止セントスルモノナリ且又這回ノ大戰争ニ使用セラレ文明世界ヲ恐怖セシメタル戰時ニ於ケル有毒ナル瓦斯及化學品ノ使用ヲ批議セントス

或ハ皮肉家ハ戰争ノ必要ニ迫ラルル時此等規則ハ蹂躪セラルヘシト云フモノアラン然レトモ此等皮肉家ハ常ニ近視眼者ナリ決定的事實ノ真相ハ彼等ノ視界ノ外ニアリ

余ハ外交官ニ依リテ締結セラレタル武器使用制限規定ハ戰争ノ壓迫ノ爲ニ蹂躪セラルルコトアルヘキヲ承認ス又武器使用ニ關シ政府間ニ約セラレタル約束ハ其最モ嚴肅ナルモノスラ戰争ノ必要ニ迫ラレテ蹂躪セラルルコトアルヘキヲ認ム然レトモ外交官以上ニ政府以上ニ文明ノ進歩シタル世界ノ輿論存在ス而シテ此世界ノ輿論ニハ處罰スル力アリ諸國議會ノ制定スル如何ナル刑罰法規ニモ劣ラサル峻嚴ナル制裁ヲ科シ以テ禁止ヲ支持スルヲ得ルナリ事實ニ疑アリ論理ニ詭辯アリ事件ノ紛糾錯雜セル場合ニ於テハ輿論モ亦混沌トシテ效力ナキコトアルヘシ然レトモ行爲ノ準則ニシテ簡單明瞭、正義人道ノ根本的觀念ニ立脚シ世界ノ輿論亦之ニ對シ決定的判斷ヲ與フル時ニ此準則ハ人類史上最大ノ偉力ニ依ツテ強制セラルヘク此偉力コソ世界ノ希望、望ムモノニ恥ヲ來ササル希望ナリ

調 印 三、斯クシテ本條約案ハ最後ノ決定ヲ見二月六日各國全權ノ調印ヲ經タリ